

形 式：皮膚がん：MM-CQ2-3

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Clinically recognized dysplastic nevi: A central risk factor for cutaneous melanoma	
	論文の日本語タイトル	臨床的に認識される異形成母斑：皮膚メラノーマの中心的危険因子	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MM-CQ2-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	9145715	
	医中誌 ID		
	雑誌名	JAMA	
	雑誌 ID		
	巻	277	
	号	18	
	ページ	1439-44	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1997 May	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Tucker MA	Genetic Epidemiol Branch, NCI, USA
	その他著者 1	Halpern A	Pigmented Lesion Study Group, Univ. of Pennsylvania, USA
	その他著者 2	Holly EA	Dept. of Epidemiology and Melanoma Clinic, Univ. of California, USA
	その他著者 3	Hartge P	Environmental Epidemiol Branch, NCI, NIH, USA
	その他著者 4	Elder DE	Pigmented Lesion Study Group, Univ. of Pennsylvania, USA
	その他著者 5	Sagebiel RW	Dept. of Epidemiology and Melanoma Clinic, Univ. of California, USA
	その他著者 6	Guerry D 4th	Pigmented Lesion Study Group, Univ. of Pennsylvania, USA
	その他著者 7	Clark WH Jr	Pigmented Lesion Study Group, Univ. of

			Pennsylvania, USA
--	--	--	-------------------

一次研究の 8 項目	目的	母斑の数、タイプと皮膚メラノーマとの関係を検討	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	米国の 2 大学病院	
	対象者	1991.1.1-1992.12.31 のメラノーマ患者 716 人と対照 1014 人	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (2)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (14)	
	介入 (要因曝露)	全身の径 2mm 以上の通常型母斑 (5mm 以上を大型とする) と異形成母斑(DN) (径 5mm 以上で、かつ多彩な色調、不規則不整な外形、境界不明瞭のうちの 2 項目を満たす) の調査	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	全身の母斑の数、タイプとメラノーマの相関	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	1) DN が存在しない場合、小型の母斑の個数がメラノーマ発生のリスクとなり、25 個以上で発生リスクが約 2 倍となった。 2) 大型母斑 (5 個以上) と小型母斑 (50 個以上) がともに多い場合はメラノーマ発生リスクが約 4 倍となった。 3) 1 個の DN が存在するとメラノーマ発生リスクが 2 倍 (95%CI:1.4-3.6)になった。 4) DN が 10 個以上になるとメラノーマ発生リスクが 12 倍(4.4-31)となった。	
	結論	通常型母斑もメラノーマ発生のリスクとなるが、DN の方が高いリスクとなる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 白人におけるメラノーマ発生リスクにおける DN の意義に関する研究	

--	--	--